

施策の評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計	目標	04	心やすらぎ住みよいまちづくり	
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード 040719
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ 67
	関連個別計画		津市環境基本計画、津市下水道事業基本計画		
	担当部局		環境部、上下水道事業局、上下水道管理局		
施策の内容(番号)		059		～	061

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番 号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価	今後の方向性	担当課
		選択区分	選択区分	
059	恵まれた森林や湖沼、河川、海岸などの自然環境の保全や野生生物の生息、生育環境の確保を図るほか、市民、ボランティア、NPO、事業者、関係行政機関などのネットワークを強化し、地域特性に応じた環境保全活動を推進するとともに、さまざまな機会を通じた環境教育・環境学習を充実し、環境問題に対する市民意識の高揚に取り組めます。	B	①	環境政策課 /環境保全課
060	公共用水域の水質改善に向け、公共下水道の効率的な整備と単独処理浄化槽や汲み取り槽から合併処理浄化槽への転換を促進します。	B	①	環境施設課 /下水道工務課/下水道施設課/ 営業課
061	環境汚染から市民の健康と生活環境を守るため、継続的に環境調査を実施するとともに、監視・指導を徹底します。	B	①	環境保全課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の 総合評価を 根拠とした 「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B	下水道計画区域及び集合処理区域を除いた区域における市営浄化槽事業の設置及び帰属数、その他の区域における浄化槽設置者に対する補助実績、温室効果ガス排出量の削減は計画を下回ったものの、し尿処理施設の適正な管理運営によるし尿及び浄化槽汚泥の安定的処理を適正に行うとともに、大気・水質等の環境調査や工場排水等の調査、地球温暖化防止等に係る総合的な啓発活動や環境保全等に係るネットワークづくり及び環境学習を実施するなどにより、環境を守り継承する社会の形成に向けた取組が進みました。

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	B	B	B				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード	040719059
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ	67
	関連個別計画		津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)			
	担当部局		環境部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		059	恵まれた森林や湖沼、河川、海岸などの自然環境の保全や野生生物の生息、生育環境の確保を図るほか、市民、ボランティア、NPO、事業者、関係行政機関などとのネットワークを強化し、地域特性に応じた環境保全活動を推進するとともに、さまざまな機会を通じた環境教育・環境学習を充実し、環境問題に対する市民意識の高揚に取り組みます。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の 振り返りとこれから (実施評価、事業評価、 今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により 直接的に表れる効果	◆ 当初の 事業実施計画	実施 評価	
	誰		誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業 評価		
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の 方向性	
059-1	山・川・海 ネットワー ク事業	交流会や学習会 を開催し、山・川・ 海各地域の市 民、事業者、環境 団体等が相互理 解を深め、情報を 共有し、環境の保 全などに取り組む ためのネットワー クづくり	効	市民、事業者、環境団体等の ネットワークを強化する	◆ 環境団体との連携	◎	環境団体が主体となって 実施した環境保全活動(清 掃活動、環境基礎講座)の 参加者数は、444名で目標 を上回った。 引き続き、環境団体と連 携し、自然環境の保全に取り 組んでいく。
	誰		市民、事業者、環境団体等	◇ 目標参加者数 260人	◎		
	環境政策 課		何	連携して自然環境の保全に取り 組む	1,500 (千円)	現状維持	
059-2	地域脱炭 素推進事 業	脱炭素に関する 価値観を波及さ せ、市内のあらゆる 主体が連携・協 力し、地域ポテン シャルを活かした 脱炭素の取組	効	地域脱炭素社会を実現し地球温 暖化を防止する	◆ 2030年度に2013年度 比温室効果ガス排出 量48%削減	×	2019年度温室効果ガス排 出量が2013年度対比で 9.5%減であったため実施 評価については「×」とし た。 2030年度の目標に向け て、より実効性のある取組 について検討し事業の加速 化を図る。
	誰		市民、事業者、団体等のあらゆる 主体	◇ 市域における温室効 果ガス排出量	△		
	環境政策 課		何	地球温暖化問題に関心を持つこ とにより、脱炭素に資する行動の 変容を起こす	445 (千円)	拡充・充実	
059-3	環境学習 センター運 営事業	3R、ごみ、自然 環境、地球温暖 化防止及び環境 衛生など、環境に 係る総合的な啓 発活動と環境活 動に取り組むネッ トワークづくり及 び様々な分野の 環境学習の実施	効	環境学習センターが環境学習・ 環境活動の拠点となる	◆ 多様な環境学習の実 施	○	環境学習等の参加者数 は、「田中川干潟生き物観 察会」が堤防工事で企画で きなかったことなどから、 139名と目標には届かな かった。 環境学習センターについ てはより環境学習の拠点と なるよう検討する必要がある。
	誰		市内外の人	◇ 目標参加者数 190人	○		
	環境政策 課		何	環境について学び、考える機会 となる	12,048 (千円)	現状維持	
059-4	生物多様 性の保全 事業	市民や関係団体 と連携し、市民活 動団体等の活動を 後援	効	環境問題に対する市民意識が高 揚し、自然環境保全等への理解 が深まる	◆ 市民活動団体との連 携	○	市民活動団体等の実施 する活動を後援し、その実 績報告から地域の環境教 育・学習活動の促進が図ら れたことが確認できたこと から評価した。今後も本事業 の実施による効果が期 待されるため、方向性を現 状維持とした。
	誰		市民活動団体	◇ 市民活動団体の活動 への後援回数	○		
	環境保全 課		何	地域の環境教育・学習活動の促 進	0 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和5年度分)

059-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
059-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
059-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
059-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	B	C	B	B				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード	040719060
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ	67
	関連個別計画	津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)、津市下水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)				
担当部局		環境部、上下水道事業局、上下水道管理局				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		060	公共用水域の水質改善に向け、公共下水道の効率的な整備と単独処理浄化槽や汲み取り槽から合併処理浄化槽への転換を促進します。			

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により直接的に表れる効果	◆ 当初の事業実施計画	実施評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点	事業評価	
	担当課		何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の方向性	
060-1	し尿処理施設管理運営事業	安芸・津衛生センター及びクリーンセンターくもずの管理・運営	効	し尿及び浄化槽汚泥を衛生的かつ適正に処理できる	◆ し尿及び浄化槽汚泥の安全かつ安定的処理	○	し尿処理施設の管理・運営において、概ね当初の事業実施計画どおり実施できたため実施評価を「○」。施設の稼働を停止することなくし尿及び浄化槽汚泥の安全かつ安定的処理を継続して実施したことで期待する効果が認められたため事業評価を「◎」。これらの結果より今後の方向性を現状維持とした。
			誰	市民	◇ 施設の年間稼働日数	◎	
	環境施設課		何	安全・安心な日常生活を送れる	549,566 (千円)	現状維持	
060-2	市営浄化槽事業	下水道計画区域及び農業集落排水処理施設などの集合処理区域を除いた区域における浄化槽の設置	効	汲み取り便所の水洗化及び家庭用雑排水等の放流水の浄化	◆ 津市下水道事業基本計画に基づき実施	△	市営浄化槽の設置及び、帰属数が計画より少なかったため「△」とした。今後は啓発活動等を行い事業の向上に取り組む。
			誰	市営浄化槽使用者、市内の人々	◇ 市営浄化槽設置・帰属件数	△	
	下水道工務課		何	生活環境及び公衆衛生の改善と公共用水域の水質保全	51,269 (千円)	現状維持	
060-3	市営浄化槽事業	下水道計画区域及び農業集落排水処理施設などの集合処理区域を除いた区域における浄化槽の維持管理	効	安心安全なまちづくりの推進	◆ 下水道事業基本計画	○	適切な維持管理により排水基準を守ることができた。引き続き適切な維持管理に努める。
			誰	使用者	◇ 下水道処理人口の増加とそれに伴う伊勢湾における水質環境	◎	
	下水道施設課		何	生活排水処理施設の維持	352,926 (千円)	拡充・充実	
060-4	浄化槽設置整備費補助事業	浄化槽設置者に対する補助	効	公共用水域の水質改善に繋がる	◆ 補助金交付92件	○	92件の計画に対し約90%の執行となった。補助金申請の減少はみられるものの、合併処理浄化槽の設置により引き続き公共用水域の水質改善に取り組む。
			誰	市内の人々	◇ 公共用水域の水質改善	△	
	営業課		何	補助金を活用し、合併処理浄化槽を設置	12,199 (千円)	現状維持	

施策の内容評価シート(令和5年度分)

060-5			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-6			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-7			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
060-9			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	A	A	A	B	B	B				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

施策の内容評価シート(令和5年度分)

1 計画における位置付け

政策 体系	総合 計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり			
		基本政策	07	環境にやさしい社会の形成	管理コード	040719061	
		施策	19	環境を守り継承する社会の形成	本冊ページ	67	
	関連個別計画		津市環境基本計画(平成30年度～令和9年度)				
	担当部局		環境部				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各 事業の実施により期 待される効果		061	環境汚染から市民の健康と生活環境を守るため、継続的に環境調査を実施するとともに、監視・指導を徹底します。				

2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の 振り返りとこれから (実施評価、事業評価、 今後の方向性を選んだ理由)
			効	事業の実施により 直接的に表れる効果	◆ 当初の 事業実施計画	実施 評価 事業 評価	
			誰	誰のための事業か	◇ 事業評価の主な視点		
			何	何のための事業か	決算額 (千円)	今後の 方向性	
061-1	環境調査 事業	大気、水質等について の環境調査や工場、事業 場等の排水等の調査	効	大気・水質環境等が保全される ことにより、市民が安全・安心で、 快適な生活を営める社会が実現 する	◆ 環境調査の実施	○	環境調査結果の公表は、 適切な時期に実施できた が、環境調査の実施に関し ては、一部の工場で改善指 導中のため実施することが できなかった。今後も環境 調査を実施していく必要が あることから、現状維持とし た。
			誰	市民	◇ 調査結果の公表回数	○	
	環境保全 課		何	環境汚染の防止、生活環境の保 全	9,601 (千円)	現状維持	
061-2			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
061-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
061-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

施策の内容評価シート(令和5年度分)

061-5		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
061-6		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
061-7		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		
061-8		効	◆		
		誰	◇		
		何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上～100%未満) △=計画を下回った(50%以上～80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	区分	選択区分
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	B

4 今後の方向性		
今後の施策の内容の方向性	区分	選択区分
	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持 ② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある ③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい ④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	①

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	B	B	B				
今後の方向性	①	①	①	①	①	①				

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

